

奴国なこくかわらばん

第四号
令和三年十一月十日

レーダー探査
特集号

12月に予定されている春日北小学校6年生との地中レーダー探査についてお知らせします。春日北小学校の地下にある遺跡について推理しました。

奈良文化財研究所と 春日北小学校が夢のコラボ

過去数回にわたってお知らせしました最先端技術を考古学の分野で応用した地中レーダー探査。この度、日本考古学の最先端研究を行っている奈良文化財研究所の金田明大かみだあきひろさんと春日北小学校の6年生がタッグを組み春日北小学校の地下に残る遺跡の謎に挑みます。

日時は令和3年12月1日の午前中を予定。最新機器を使いながら小学校のグラウンドを調査します。



▲地中レーダー探査機
三輪を持つ扁平な機体には、正確な位置情報を得るためのGPSとハンドルにはパソコンを設置する。

地中レーダー探査の方法

小学校のグラウンドには、大変重要な遺跡が埋まっている可能性があります。そこで、まずは地中レーダー探査を行い、どこに、どんな遺跡あるのかを調べます。その結果によっては、実際に発掘調査を行う可能性もあります。地中レーダー探査で地下の様子を知ることが、その後の調査研究に大変有効です。

まず、今回の調査は、グラウンドに長方形の調査区を設定します。次に調査区の一辺に平行するように、50cm間隔で真っ直ぐに探査機を押し送り引いたりします。この作業を金田さんと子ども達が一緒に行います。探査機の裏に取り付けられた機械が地下の様子を計測し、手元のパソコンに情報が送られ、解析されます。この調査を子ども達は体験できるのです。



▲レーダー探査の様子(令和3年6月1日)
探査機を操作する金田さんと職員。

世紀の大発見を経験？

今回の調査によって、素晴らしい遺跡が発見されるかもしれません。調査データは金田さんにより解析され、後日子ども達に知らされる予定です。

最終的には発掘調査によって判断されますが、もしかすると子ども達は世紀の大発見に立ち会えるかもしれません。



▲現在の春日北小学校のグラウンド
小学校の周りでは、全国的に例を見ない弥生時代の王族の墓地、当時最先端の青銅器工房群、ガラス工房などが集中して見つかっています。

※見学につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の予防に、ご協力ください。

【問い合わせ先】春日市奴国の丘歴史資料館

Tel 092(501)1144
Fax 092(573)1077

春日北小学校の地下に残る 須玖坂本B遺跡

春日北小学校のほとんどは、須玖坂本B遺跡に含まれます。今回は須玖坂本B遺跡について紹介します。

春日市には、須玖遺跡群という大遺跡群があり、特に北部には奴国王族の墓地や青銅器・ガラス玉の生産遺跡など他に類を見ない遺跡が集中しています。

左の図を見ると橙色・水色の集落・工房域の近くに、黄色の墳墓が位置していることがわかります。



▲須玖遺跡群の遺跡の種類
北側に青銅器などの工房（水色）が集中しています。



▲須玖坂本B遺跡の調査地点

奴国の王族の墓地は岡本7丁目一帯にあることは分かっていますが、王宮（居住域）がどこにあるのかは分かっていません。

先ほど須玖遺跡群では、集落などの近くに墓地があると述べました。そのことから王族の墓地の近くに、王宮がある可能性が高いのです。しかも、ある程度広い面積を持つ平坦地の可能性もあります。

これらのことから、推察すれば須玖坂本B遺跡が、王宮の候補として考えられます。ここからは、青銅器生産関連遺物だけでなく、中国か

らもたらされた貨泉と呼ばれるお金や矢尻も見つかっており、権（分銅）も複数個見つかっています。また、南側には直線的な溝が調査されており、王宮を巡る溝の可能性も考えられます。

須玖坂本B遺跡は、8ヶ所の調査が行われていますが、その場所は遺跡の端ばかりで中心部は発掘されていません。

今回の地中レーダー探査が、王宮発見のきっかけになればと期待を寄せています。



▲銅鏃（左）と貨泉（右）